

読書に縁のなかった人たちを、「読んでみようかな」という気持ちにさせるのは、本の魅力やおもしろさを伝える人たちの熱い活動です。



平成29年度の読書活動は

「子ども読書の日（4月23日）」から本格始動予定

毎年、県は文部科学省からの依頼を受けて「子ども読書活動推進計画」策定状況と「子ども読書の日」に関する取組予定状況調査を行っています。来月予定されている県内の「子ども読書の日」の取組は、220件となっています。

秋田県の全ての市町村では、今年度よりそれぞれの「子ども読書活動推進計画」にしたがって、実情に応じた読書推進の取組が行われています。また、大館市、小坂町、男鹿市、秋田市、大仙市は2次計画に移行し、美郷町と東成瀬村も2次計画を策定中です。

一方、文部科学省は、広く国民の間に子どもの読書活動への理解と関心を深め、子ども自身が読書への意欲を高められるように、4月23日の「子ども読書の日」啓発ポスターを送付しています。今年も、絵本作家のとよたかずひこ氏の絵と、「きみが読むのを待ってるよ」の言葉が温かく感じられるポスターになっています。



また、「子ども読書の日」前後2週間の期間に、県内各市町村の図書館や学校等で行われる予定の取組総数が、これまでの最高となる220件となりました。内容も、子どもの興味関心を惹き付けるものや年齢に応じたもの、地域性に富んだものなど、魅力的なイベントが揃っています。その一例をご紹介します。

- ・ぬいぐるみのおとまり会（鹿角市、大館市、藤里町）
- ・児童生徒による読み聞かせ（能代市、大潟村、潟上市、横手市、湯沢市）
- ・工作など創作活動を入れたおはなし会（鹿角市、小坂町、大館市、男鹿市、潟上市、五城目町、大仙市、仙北市、羽後町）
- ・外国語での絵本の読み聞かせ（由利本荘市、湯沢市）

これら、全国の各市町村の取組予定は、「子ども読書の情報館」(<http://www.kodomodokusyo.go.jp/>)で見ることができます。

司書教諭等を目指す大学生が

ビブリオバトルで
本の魅力を実感！

2月3日（金）、秋田大学の「読書と豊かな人間性」の講義の中で、司書教諭を目指す学生たちが、幼児から高校生までの子どもに読ませたい本をテーマとして、ビブリオバトルを行いました。グループ予選を勝ち抜いて決勝に進出したのは次の4冊で、『ぼくのおかあさんはでぶだぞ』がチャンプ本に選ばれました。

- 📖 『凍りのくじら』（辻村深月・作 講談社）
- 📖 『マチルダは小さな大天才』（ワルト・ダール・作 ケンティン・ブレイク・絵 宮下嶺夫・訳 評論社）
- 📖 『ぼくのおかあさんはでぶだぞ』（そうまこうへい・作 架空社）
- 📖 『キノの旅』（時雨沢恵一・作 黒星紅白・絵 電撃文庫）

ビブリオバトルの体験を終えて、大学生たちは右のような感想を述べていました。



チャンプ本を獲得した佐藤さん（左）とグループ予選の様子（右）

「全員から、その本の魅力を伝えたいという思いが伝わってきて、ぜひ読んでみたいと思えました。また、どういふいきさつでその本に出会ったのかを知ること、その人の人間味が感じられることを改めて知りました。」

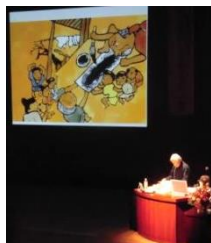
「知っている本は、違う人が読むとこんな風に解釈されるんだ、と新鮮な驚きがあり、知らなかった本は、単純に読んでみたい！という感想を持った。好きな本を知ってもらい、興味をもってもらえるのはとても気持ちがいい。」

「どんなにいい原稿を作っても、話し方が悪ければ聴衆に伝わらないのだと勉強になりました。＜中略＞ビブリオバトルは、ただ本を紹介するよりも読んでみたいという気持ちが大きくなるので、読書を推進するのに適した活動だと思いました。」

親子で楽しむ「じごくのそうべえ」の物語

田島征彦氏講演会 2月19日(日)

作者である田島氏が、「ふしぎなともだち」「てんにのぼったなまず」など4作品を朗読しながら、それぞれの作品に込めた思い等について語る講演会に、約80人の親子が参加しました。参加者たちは、「何度も取材旅行を重ね、かなりの年月をかけてようやく1



講演する田島氏

冊の絵本を完成させていることから、田島さんの強い思いを感じました。」「時代の中で、忘れられていく大切なものを風化させずに残していきたいと、社会に訴えているのが分かりました。」という感想を述べていました。

人形劇「じごくのそうべえ」 2月26日(日)



人形劇団ポポロが「じごくのそうべえ」の世界観を立体的に表現したステージを、約450人の親子が楽しみました。絵本の言葉に膨らみを持たせたセリフやアドリブに、子どもたちがよく反応し、演じる方も熱が入るといふ相乗効果で、会場は盛り上がりました。中でも、原作にはない、携帯電話を使って閻魔大王の指示を仰ぐ場面や、おばあさんによって着物をはがされた娘が実は男だった場面には大喜びでした。「笑いのツボを押さえた演出で楽しかったです!」と、大人も満足したようです。



ブックカフェで 絵本の読み聞かせ



「よみきかせ会」のチラシ(左)と当日の様子(右)

おいしい飲み物を片手に、好きな本をゆっくり読む贅沢を味わうことのできるブックカフェが、全国的に増えてきています。秋田市御所野にあるイオンモール秋田の未来屋書店にも、そんなスペースがあります。

2月12日(日)、そのカフェで行われた「えほんのよみきかせ会」に、約40人が集まりました。いつもの図書館や学校などと違って、コーヒーの香りが漂うおしゃれな場所で、パネルシアター「冬の日のおさんぽ」、絵本「ほげちゃん」などを楽しんだ親子の中には、早速、絵本コーナーに向かう姿も見られました。また、カフェを利用している大人たちも、読み聞かせが始まると、懐かしそうに耳を傾けていました。

秋田県高等学校図書館報コンクール 今年も力作が揃いました!

高等学校の図書館報は、読書への関心を高めるために、図書委員会の活動や本の魅力を紹介する広報紙です。毎年、県内各高等学校の図書館報を集めたコンクールが行われ、次の基準で審査されています。

- 1 紙面構成: レイアウトが見やすく、写真や見出しにも工夫が凝らされているか
- 2 内容: 生徒の声が反映されていたり図書委員会の活動がよく記録されていたりしているか
- 3 独創性: 図書委員会の活動や記事の企画に独自性があるか

今年度、応募のあった16校の中から、最優秀賞に選ばれたのは、3年連続で大館国際情報学院高等学校でした。また、全応募作品を県立図書館のエントランスホールに展示し、たくさんの来館者に見ていただきました。

《平成28年度 審査結果》

- 【最優秀賞】大館国際情報学院高等学校「図書館報」
- 【優秀賞】能代西高等学校「しらかみ」
- 【優秀賞】六郷高等学校「白い雲」
- 【企画賞】能代高等学校「たかはな」
- 【読書推進賞】能代松陽高等学校「松陽図書館報」
- 【委員会活動賞】湯沢翔北高等学校「拓(ひろく)」
- 【努力賞】大館鳳鳴高等学校「鳳鳴図書館報」
- 【努力賞】秋田南高等学校「図書館報」
- 【努力賞】秋田中央高等学校「緑園」
- 【奨励賞】十和田高等学校「潜心」
- 【奨励賞】秋田西高等学校「翠みどり」
- 【奨励賞】由利工業高等学校「図書館報」
- 【奨励賞】大曲高等学校「天狼星 シリウス」
- 【奨励賞】雄物川高等学校「あしかび」
- 【奨励賞】羽後高等学校「羽後 図書館報」
- 【奨励賞】雄勝高等学校「小町草子」

秋田県教育庁生涯学習課
社会教育・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>